

国語科学習指導案

指導学級： 3年3組 15名

指導場所： 3年3組教室

指導者： 教諭 山口 裕範

1 単元名

「自然と人間のかわりを考える」

教材名 「松と杉」(三省堂 現代の国語3)

2 単元について

「松と杉」は、「平和を築く」「メディア・リテラシー」「『ありがとう』と言わない重さ」とともに、第3学年の説明的文章教材4編の一つである。「松」と「杉」の現状を、それぞれにその背景や経緯と関係づけて説明し、両者を比較することで、現在の日本の森林事情が危機に陥っていること、そしてその打開策として森林の環境保全力を評価した山を守り育てる方策を模索すべきだということを主張した文章である。

また、日本の森林の在り方と日本人の生活の在り方が深くかかわりをもっていることが導き出されており、我々の生活の在り方を変えていくことが、現在の森林事情を打開するために必要不可欠なことであることも指摘している。日本の自然と人間の生活のかかわりについて考えを深めながら筆者の主張を読み解かせたい。

構成としては大きく二つのまとまりになっており、前段では「松」について、後段では「杉」について述べられている。「松」と「杉」を並列させる述べ方から、両者に関する現状が対比的に述べられている。現在、松も杉も育てることが難しくなっている中で、この二つの木材が日本人の生活と深く結び付いてきたことを説明しようとしていることから、共通性に焦点化させていく読み取りを行わせたい。

なお、本教材は『INAX ALBUM 31 現代木造住宅論 校倉の住まい』(INAX出版 1995年)の第3章「松と杉」を基に書き改めたものであるため、導入部分がなく、また、両者を比較して結論を導くことは読み手に委ねられている。論理の展開の仕方を押さえることで内容の理解を深めるとともに、結論部分をまとめる活動を展開したい。

3 単元の学習目標

日本の自然と人間の生活とのかかわりについて考えを深めることができる。

複数の話題を比べながら論の展開の仕方をとらえ、筆者の考えを読み取ることができる。

4 単元の学習計画及び評価規準

(1) 単元の指導事項と身に付けさせたい力

本校国語科における研究の取組として、教材ごとに新学習指導要領の指導事項に照らし合わせて、その教材の学習で身に付けさせたい力を整理した。本教材は、「読むこと」の領域の教材として、下記のように設定した。

	第3学年〔C 読むこと〕の指導事項	身に付けさせたい力
味の理解	ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。	本文中の接続語や指示語の意図を理解して読むことができる。 解説をよく踏まえて専門用語の意味を把握し、筆者の見方、考え方の理解につなげることができる。
解釈	イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。	対比を用いた論理の展開の仕方をとらえ、筆者の主張の理解に役立てることができる。

	第3学年〔C 読むこと〕の指導事項	身に付けさせたい力
え 自 分 の 考 え の 形 成	ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。	既習の説明的文章と比較して、本文の構成や展開の違いに気づくことができる。
	エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。	日本の自然と人間の生活との関わりについて、自分の考えをもつことができる。
情報 活 用 読 書 と	オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。	他の資料と比較して読むことで、考えを広げたり深めたりできる。 具体的な事例を書籍やインターネット等で調べ、情報を補いながら理解することができる。

(2) 学習計画及び評価規準

次	時間	学 習 の 内 容	評 価 規 準
1	1	全文を通読して、大まかに内容をとらえる。 全文を通読して、大まかに内容をつかむ。 新出漢字や語句の意味を確認する。 対比とは何かを理解する。	本文の内容を、大まかにつかむことができる。 新出漢字や語句の意味を理解することができた。 対比の概念や観点の重要性、対比を用いる効果を理解することができる。
2 3 4	3	「松」についての内容をとらえる。 前段を音読する。 示された観点について、該当する部分を本文中から探して印を付ける。 グループで話し合いながら、「松と杉の対比表」上段に松に関する記述を書き入れる。 松原が減少した理由を押さえる。	しっかり声に出して読むことができる。 示された観点について、該当する部分を本文中から探して印を付けることができる。 対比表に松に関する記述を記入することができる。 松原が減少した理由を押さえることができる。
		「杉」についての内容をとらえる。 後段を音読する。 示された観点について、該当する部分を本文中から探して印を付ける。 グループで話し合いながら、「松と杉の対比表」下段に杉に関する記述を書き入れる。 杉山の問題点とその理由を押さえる。	しっかり声に出して読むことができる。 示された観点について、該当する部分を本文中から探して印を付けることができる。 対比表に杉に関する記述を記入することができる。 杉山が荒廃した理由を押さえることができる。
5	1	説明的文章の三段構成とそれぞれの役割を理解する。 説明的文章の三段構成について確認する。 本文の構成をとらえる。 序論の部分を考えて書く。 結論部分の形式を押さえる。	資料「カプトガニを守る」から、序論・本論・結論の構成とそれぞれの役割を理解することができる。 本文が本論のみの構成となっていることを理解することができる。 序論部分を書くことができる。 事例を受けてのまとめの部分と、筆者の主張の部分からなることを理解することができる。
6 (本時)	1	筆者の主張をとらえる。 結論部分の形式を確認する。 本論を踏まえて、まとめを考える。 筆者の主張を考えて、結論部分を書く。 書いた結論部分を、根拠を含めて発表する。	事例を受けてのまとめの部分と、筆者の主張の部分からなることを押さえることができる。 松と杉の対比から見えてくる共通性から、どちらも人間が必要として植えられてきたが、使われなくなったことで現状に至っていることを理解することができる。 結論部分を書くことができる。 本論とのつながりを根拠として説明することができる。
7	1	自然と人間のかかわりについて考える。 他の資料と読み比べる。 自然と人間のかかわりについて、自分の考えを書く。	襟裳岬や気仙沼の事例や「生物の多様性と環境」と読み比べ、自分の考えを広げることができる。 自然と人間のかかわりについて、自分の考えを書くことができたか。

4 本時の実際 (6 / 7)

(1) 教材名「松と杉」

(2) 学習目標

松と杉の対比を通して筆者が主張していることをとらえ、結論部分を書くことができる。

(3) 授業設計の視点

ア 指導内容に基づいた効果的な言語活動の工夫

本教材は、「松」と「杉」の二つの話題を対比的に取り上げて述べているが、両者を比較して導かれる結論は示されていない。また、序論の部分もなく、「松」についての記述が始まっている。

そこで、三段構成の文章に書き換えることで、文章の構成や論理の展開を意識させる。

イ 主体的に読もうとする説明的文章の指導の工夫

序論と結論部分を各自で作成する言語活動を行うことで、生徒が主体的に読むことをねらいとしている。

(4) 授業の展開

過程	時間 形態	学 習 活 動	指導上の留意点と評価 (は評価項目)
導 入	5分 (一斉)	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">松と杉の対比を通して筆者が主張していることをとらえ、結論部分を書こう。</div>	前時に書いた生徒の序論をいくつか紹介して確認する。 学習課題を掲示し、学習の見通しを持たせる。
展 開	3分 (一斉) 15分 (個) (一斉)	3 結論部分の形式を確認する。 4 対比表を基に、結論部分を考える。 (1) 対比表を基に、まとめの根拠となる共通点を考える。 (2) まとめ部分を踏まえて、筆者の主張を考え、ノートにメモする。	事例を受けてのまとめの部分と、筆者の主張の部分から成ることを押さえさせる。 資料「カブトガニを守る」を提示して確認する。 まとめの根拠となる共通点を対比表で確認し、印を付けさせる。 発表させ、整理して板書する。 共通点を押さえることができたか。 筆者が今後どうすべきだと考えているかを自分なりに想像させる。 「打開策・方策」の部分を参考に考えさせる。 筆者の主張を自分なりに考えることができたか。

過程	時間 形態	学 習 活 動	指導上の留意点と評価（ は評価項目）
展 開	10分 (個)	5 まとめと筆者の主張を文章化し，結論部分を書く。 (1) 書き出しの言葉，接続語，段落数，字数を確認する。 (2) 結論を200字程度で書く。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">【視点ア】 指導内容に基づいた効果的な言語活動の工夫</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">【視点イ】 主体的に読もうとする説明的文章指導の工夫</div> <p>接続語については「このように」「そこで」などを助言する。</p> <p>まとめの部分と主張の部分の2段落構成で，8行から10行で書かせる。 結論部分を書くことができたか。</p> <p>数名の作品を選び，書画カメラで示して発表させる。 結論を導いた根拠や工夫したことなどを含めて発表させる。</p> <p>筆者の主張をとらえることができたか。</p>
	10分 (一斉)	6 書いた結論部分を発表する。	
	5分 (一斉)	7 生徒の発表を基に，筆者の主張を確認する。	
終 末	2分 (一斉)	8 本時の学習のまとめをし，自己評価を記入する。 9 次時の予告を聞く。	自己評価カードに記入させ，本時の学習を振り返らせる。